



JASDAQ

平成 26 年 1 月 20 日

各 位

長野県伊那市西箕輪 2148 番地 188
株式会社イナリサーチ
代表取締役社長 中川賢司
(コード番号: 2176)
問い合わせ先: 執行役員 総務部長 野竹文彦
電話番号 0265(73)6647

マーモセットによる医薬品開発試験の導入について

株式会社イナリサーチ（以下「当社」）は、平成 25 年 4 月 8 日付で日本でのコモンマーモセット（注 1：以下「マーモセット」）研究の先駆者である公益財団法人実験動物中央研究所（野村龍太理事長：以下「実中研」・下記概要参照）と共同研究契約を締結し、実中研が 1978 年から 36 年間にわたり蓄積した背景データ利用と動物取扱いに関する技術・経験の指導・提供を受ける体制を整備し、医薬品開発における非臨床試験領域へのマーモセットの適応拡大に取り組んでまいりました。当社ではこの間、マーモセット試験の専用棟を設置し、医薬品 GLP 適合施設（注 2）としての設備・手順書・教育された要員を整え、飼育・試験操作法の確立と試験法バリデーション等を進めた結果、学術研究機関から毒性試験（GLP 試験）を受注し、このほど当該試験を開始する運びとなりましたので、お知らせ致します。

1. マーモセット試験の意義

マーモセット試験の有用性・将来性としては以下の点が挙げられます。

(1) 小型霊長類としての利点

- ・ バイオ医薬品をはじめとして非常に高価な新薬候補物質が増えており、初期スクリーニング（新薬候補物質の探索）試験において、カニクイザルに比べて新薬候補物質の使用量が少なく済むマーモセットの需要が今後高まる
- ・ iPS 移植研究の分野でも、マーモセットは他の動物と比較して少量の iPS 由来細胞で移植実験ができることから応用が期待できる

(2) バイオ医薬品開発における需要

上記の新薬候補物質の使用量が少なく済む点に加えて、ラットと比べてヒトに類似した反応性を有している霊長類であることから、今後のバイオ医薬品開発におけるマーモセットの地位は向上する

(3) 中枢神経系薬の薬効薬理試験・依存性試験の拡大

霊長類であることから、当社が得意とする中枢神経系薬の薬効薬理試験や依存性試験分野でもマーモセットによるスクリーニング試験の需要拡大が見込める

(4) 欧米での需要拡大

- ・ 英国内務省等の欧米行政当局は動物倫理の観点からカニクイザルよりもマーモセットを使用することを推奨している
- ・ カニクイザルに比べて、B-ウイルス感染のリスクがないため、試験従事者福祉の点からも欧州企業中心に使用が拡大している

2. 受注体制及び今後の展開

当社が毒性試験実施に不可欠なマーモセット病理検査の経験者を有していることも、早期での受注獲得につながりました。また、マーモセットの繁殖効率が高い（年2回・4頭出産）ことから、将来的には生殖試験の実施も視野に入れて研究を進めております。

実中研との共同研究に関しましては、その成果の一つを「安全性薬理試験におけるコモンマーモセットによる FOB(機能観察総合評価法)の検討」という表題にて、2014年2月14日/15日に開催される第5回日本安全性薬理研究会（東京大学・弥生講堂）で発表いたします。

3. 共同研究の相手先の概要

(1) 名称	公益財団法人実験動物中央研究所
(2) 所在地	神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-12
(3) 事業内容	実験動物に関わる研究調査及び開発並びにその成果の普及
(4) 創設	1952年5月(財団法人化は1957年)
(5) 創設者	野村達次
(6) 代表者の役職・氏名	理事長 野村龍太
(7) 所長	理事 秦 順一
(8) 所員数	70名（その他客員研究員等約50名）

4. 今後の業績見通し

本件が当社グループの当期業績に与える影響は軽微であり、来期以降の業績への影響については現在算定中であります。

(注1) コモンマーモセット

広鼻猿類（新世界ザル）オマキザル科マーモセット亜科に属する体重約300gの小型霊長類

(注2) 医薬品 GLP 適合施設

医薬品の安全性に関する非臨床試験のデータの品質と信頼性を確保するために、薬事法に基づき厚生労働省令で定めた GLP (Good Laboratory Practice) 基準に適合している試験施設

以 上